

カルチャーナイトを楽しむ

カルチャーナイトは、文化施設や公共施設等を夜間開放するイベントで、2003年から札幌市内で開催されているものです。

もともと、カルチャーナイトは北欧が発祥の地といわれており、公共施設や文化施設、民間施設を夜間開放してもらい、市民が地域の文化を楽しもうというものです。

札幌では、毎年学校の夏休みに入った第一週の金曜日に開催されており、今年は15日に札幌時計台、札幌円山動物園、道庁や札幌市役所といった社会教育施設や官公庁の他、テレビ局など105の施設が参加し夜間開放されました。

普段は縁遠い施設にも入れるとあって、子ども連れで来られる方も沢山いらっしゃいますし、各施設の方でも、それぞれ施設の持っている専門分野や特色を生かした文化プログラムを提供するなど、今では市民に親しまれるイベントに成長しています。

こうした動きは札幌市を越えて、土別市、夕張市、函館市など全道に広がりつつあることは、地域の資源を文化活動に活用するという意味でも良いことだと思います。

さて、ここからが実は本題でして、私は現在、男声合唱団の一員として活動しています。なにしろ合唱団の名前が「ススキーノ」なものですから、良く「ススキノ」と間違われ、酒を飲むのが主体の合唱団だろう位にしか思われていませんが、これがなかなか真面目な合唱団で、毎週土曜日の夜3時間、厳しい練習を重ねています。

カルチャーナイトには4年前から参加しており、今年は道立近代美術館のロビーでコンサートを行いました。沢山のの方々にご来場いただき（団員の身内の方も相当入っていたようですが）、私たちの合唱を楽しんでいただきました。

コンサートに参加したのは団員の内50名程ですが、それでも、混声や女声の合唱団とはひと味違う合唱の面白さを感じていただけたのではないかと考えています。

合唱団「ススキーノ」は、仕事も年齢も様々な方々の集団で、共通点といえば歌が好きということ位しかありません。ですから、カルチャーナイトも、一番楽しんでいただけたのは歌を歌っていた団員の方では？と感じています。

ビートルズの歌を暗譜で歌うという大それた事もしてしまっていて、実力はともかく、恐れを知らないおじさんの集団ということになっています。私などは、楽譜も読めず、まともに発声もできていないのに、サントリーホールやキタラの舞台に立つというキャリアだけは積んでいます。まさに、恐れを知らず、図々しさだけで歌い続けている私です。（塾頭 吉田 洋一）